

第1回教区セミナーアンケート 2018.6.12

問1、「史料に読む供養の歴史」の講義は如何でしたか。

- 「命をとらえる仕方を奇跡とみればそれに感謝の念が自然と出る。これが葬儀、供養の原点だと。正にその通りだと思います。こうとらえれば世間に起こる凶悪な事件に対応する契機になるのではないのでしょうか？
- 「人生に必要なものは、夢、努力、少しの蓄え、そしてたくさんの友である。」という言葉は恵まれた人には良いが、孤立している人には、友と呼ぶ者もないし、蓄えもない、夢もない、苦勞しているのに、これ以上努力せよというのかと、反発されるのではないだろうか。
- 知らないことが多く、大変勉強になった。
- 命に対する感謝の気持ちを大切にしていきたいです。
- 色々な意味でお寺の仕事をする事が楽になった。
- おもしろかった。並木さん自身の経験されたことをもっと聞いてみたかった。
- 年忌を行う意味がよく分かり、檀信徒に意味を伝えることが重要だと思いました。
- 供養に関する資料は少ない
- 「なぜ年忌法要をするのか？」を檀家に説明する一端を知ることができた。「檀家に精一杯尽くせばお寺はなくなることはない」という並木師のお言葉に勇気を頂いた。
- 今回、直接法階昇進には関係無かったのですが僧堂で行うセミナーは老大師の講席や稟とした雰囲気は気持ちよく毎回楽しみでした。今回は供養の歴史ということでそれはそれで楽しみで参加させてもらいました。知らないことが多々有りたい変わりがやすく檀家さんに聞かれても説明できるようになり有意義でした。
- 年忌法要の発生は、エト（干支）にあるという説は説得力があると感じた。天皇家周辺では、国忌が定められ、毎年祥月命日に法要（追善供養）が行われることが奈良末～平安初期に実施された。年忌、周忌よりは毎年供養が先行して実施されていたことと、儒教的背景があったことと指摘されたと思う。
- 四十億年前から命の螺旋を受けついでいるといわれたのが強く印象に残り、話もわかりやすかったです。
- お葬式の意義、大切さ、を感じる事ができました。
- ユーモアを交えた講義で親しみやすく、私たちに少しでも説法するヒントを与えようとお話し頂いたので有難かった。「供養」についてどう説くか、禅宗の立場で考えたりせず、シンプルに考えていいという言葉に救われた気がしました。
- 我々僧侶にはなじみ深い年忌法要だがなぜ13、17といった数で行うのかという疑問があり、今日その答えを知ることができました。
- 穏やかな口調と随所に体験談を交えられながら、自分に置き換えながらお話を聞かせていただきました。資料を自坊で拝見させていただきます。

- 葬儀や供養の意味をあらためて考える良い機会になりました。
- 年忌法要の数字について詳しく知れたのがとても勉強になりました。
- もう少し時間を作って講義を受講したいです。
- 老師ではなく、和尚でしたので、逆に日常に生かせるお話でとても良かったです。
- 内容は大変勉強になりました。檀信徒の供養法要の際にお話しを供養法要に生かしていきます。
- 並木師に感謝です。

問2、人権研修「他を学び自らを知る」の講義は如何でしたか。

- 僧堂での食い上げも下手をすると裁判沙汰になると言われて驚きました。時代は変わるとは言え、根本さんの活動は幅広く、世間にはしっかりと目を向けて活動してみえるなあと感心しました。
- 僧侶の研修に「アイスブレイク」は必要かな？
- 人権について、普段あまり知らないことが多く、良かった。
- 差別が思っているより身近にあって、大変おどろいた。
- 自死、消えたい人に対するの対応を気をつけたいです。
- 現地に行ってみる事が大事ではないかと思った。
- 資料が少なくて分かりにくかった。もうちょっと大きな声ではっきり話してほしい。
- 自死の問題は本人だけでなく遺族にも心の傷を与えるものだと思った。
- 人権問題は幅広く奥深いことが良く解った。1人が自殺すると六、七名の家族と周りが孤独化したり精神を病む、仏教の立場からの視点を相手、仲間に伝えたり話し合っておくことが大事。
- 差別と人権は大きな問題である。溝が埋まらない。
- 「自死遺族」「消えたい人」の質問にどう答えたらよいか、私自身悩ましく思っていたところ、今回明確に提示してくださって有益だった。
- 少しテーマと結論がはっきりしなかった気がするが人権問題の取り組みとアプローチを知ることができました。
- 参考になりました。
- 本山での人権に対する活動を紹介していただいた。また野田師の「おやつクラブ」の取り組みも紹介していただいた。国内よりむしろ、海外からの評価が高いことは素晴らしいと思います。また自死と残された家族への対応を教授頂け参考になりました。
- 他宗教のことを知ることはとても大事だと分かった。イスラム教の事、自死をした遺族と考えてる人の受け答えがためになった。
- わかりやすく、深いところまで学べたと思います。自殺に対して、もっと深く考え、なくす努力をしなければいけないと思った。

- 現代の問題になっている「自死」について、国での対策も行われているが、私たち僧侶にできることが有るのではないかと感じました。人によって悩みは違うし、相手によって説き方は様々だと思うが、しっかりと話しを聞くということを大切にしたいと思います。
- 「自死は悪いことなのか？」という問いについて相手により、全く正反対の答えをすることが正しい、という先生のお話は印象に残りました。
- 自死も立場によって言葉を変えて対機説法なのだとしみじみ感じました。仏教からみた自死の問題に釈尊は自死を認めておられる（もちろん場合による）と本で読みましたが、肯定はしていない。どこまでも相手と一つになる不二の気持ちが大切と感じました。
- 命の尊さや差別を知ることができ、これからも考えたいとおもいました。
- 今の時代は人と人とのつながりが希薄です。そのような中「話だけは聞けるよ」というのは僧侶の大事な役目だと思いました。また、自死の方の対応に悩んでいたのもそのヒントを頂けた気がします。
- コーランに興味を持ちまた超宗派の繋がりはこれから、もっと大切になると感じ、他の宗教をしっかり理解しなければならないと感じました。
- 今までの人権講座の流れを知り、また自殺の方への対応の仕方の例を知れてとても勉強になりました。
- 自死の事に向き合う良い機会になりました。
- 自死遺族に対する対応の仕方、大変参考になりました。

問3、人権研修「暮らしの中に人権の視点を」の講義は如何でしたか。

- 普段の生活では縁の遠いテーマですのでその分疎くなってしまいがちでした。この問題についてこれまでの出来事、そして現在こうなっていますよ、そしてこれからの展望、という3つの視点を確認出来たように思います。
- 人権問題、難しい問題ですが、差別は人が作ったもので、人の意識はかえられる。少なくとも、自分自身の意識はかえられることを認識する事が出来た。
- 差別を受けることの具体的な話や、日常生活での具体的な悩みを聞けるとより身近に感じる。
- 長い間、時間をかけても差別の解消はなかなか進まないで積極性が必要だと感じた。
- 「人権に関する県民の意識」の中で、身元調査に肯定的な人が7割りもいることに驚いた。「言葉は人を殺す」ということを常に意識しなければならない。
- 私の近域にはなかったのか、大学で勉強するまであまり意識していなかったのですが僧侶という立場になった今では、部落差別にかかわらずすべての差別について学ぶ必要があるので、このように専門の方に講義を受けることは大変勉強になりました。

- 人権問題の現在の課題について掲示いただいた、加藤氏が情熱をもって問題と解説頂いた。社会に潜在する様々な差別を問い出された。また長らくの取り組みによって差別問題は減少している事を明らかにして頂いたが、尚もまた根強い問題であることと気づかされた。
- 宗教の中に差別は内包されているとおっしゃられたのが強く印象が残りました。話が少し難しいと感じました。
- 身近でこのような部落差別があると思わなかったのが驚きました。人権について深く考えるべきだと思う。
- 部落差別という問題が正直言って身近に感じていなかったのも、そうした人たちの苦しみに目を向けることができていなかったと感じました。しかし僧侶という立場である以上、こういう問題にもアンテナをはらなければいけないと感じました。
- どうしたら差別意識はなくせるか？ 日ごろから意識的であるようにするしかないのだろうと思いました。
- 何事も、自分事として考えるということが、キーポイントとひしひしと感じました。津島支部への「人間とは思えないひどい中傷」があることに驚きました。知らないは自分が加害者となっている可能性があることに気づき、ゾッとしました。
- 今でも部落差別があることに驚きました。一人の人間としてこのことは考えていきたいです。
- 2016年の本当に最近の事ですが、津島支部に差別投書があったことに驚きました。自身に反省しなければならない点があったように思いました。意識をしっかり持たなければ変わらない、知らず知らず差別に目をそらしていたかもしれない。
- 人権問題を通じて社会問題を違った角度からみえるようになりました。
- 部落問題について今一度お話を伺い、今後も向き合っていきたいです。
- とても良いお話でした。「橋のない川という」334ページに及ぶ小説があります。壮絶な被差別部落の苦しみが描かれております。これを読むに限ります。

問4、「住職研修会」の内容をどう感じられましたか。

- 法階昇進対象セミナー、と言うだけあって、過密なスケジュールはまるで接心をしているようでした（主に足の感覚上）こんな感覚、私はいやではありませんよ。
- 法階研修だけでなく人権に関して学ぶことができ、良かった。

- 重い話でしたが勉強になりました。
- 「人権」の取り組みは良いことだと思う。供養のあり方も最終的には人権のように人との接し方につながってくると思う。
- 各師の実践、体験に則したお話や、人権に関する最新の情報を知ることができ、大変有意義だった。
- 普段これだけの長時間集中して講義を受けることは最近あまりない事なのでもう少し休憩時間を増やし、1つの講義の時間を少なくしてくれると集中できるとおもう。
- 一日中の研修会は大変ではないか？
- 今回は大きくは2つのテーマで進行せられたと思うが、講座が一つ変更されていたので少しテーマが明瞭になったように思います。
- 日常生活をしていたら、感じられないことを知ることができました。環境も本堂という所で聞けたので、落ち着いて聞くことができました。
- 普段、なかなか聞けない方のお話を聞く事ができ、大変意義のあるものだと感じました。僧侶の意識向上にも、大切な研修会だと思います。
- 座学が三講座続くと少し長く感じますね。内容はそれぞれ価値があったと思います。
- 三講座ともそれぞれの特色があり大変勉強になりました。日常で、法務において、活かして参りたいと思います。
- 今日学んだことを自坊で生かしていきたいと思います。
- 普段聞けない話を聞いてとても良かったです。
- 意義ある研修会であったと思います。出席出来て良かったです。
- 一般寺院ではなく徳源寺という僧堂を借りて行うので、僧堂らしい講義も欲しかったです。
- 一寸、疲れました。もう少し短くして頂けると有難いです。
- 大変良かったです。

問5、今後の教区寺院セミナーでどのような内容を希望されますか。

- 特にありません、これからも頑張って進んで参加していこうと思います。
- 一回でバリエーションのある研修会であると良いと思う。
- 今後も定期的に人権問題のテーマで研究する事が望ましく思いました。
- 今回の研修を始まりとして、人権問題に日々取り組む為寺院セミナー毎に20分でも良いので学習会に取り入れていただきたい。
- 「人権」についてより見識を広げる。LGBT・エイズ・自死のケアなど、新しい問題は多い
- 「うつ」や「ひきこもり」の人に対する仏教的アプローチを実践、体験に則したかたちで知りたい。

- 今年度から特に人権問題に重きを置く様ですが、今回の様に専門の方による講義は大変貴重な機会では是非またこの様な機会を作ってもらいたいと思いました。参加者が少ないのはもったいないとおもいます。人間が造った差別は人間がなくせるという言葉が印象にのこりました。
- 教区委員、セミナー委員の皆様のご苦勞を思うと頭が下がります。皆様のアイデアで喜んで参加させてください。
- 前回、前々回より分かりやすかったです。
- 年1回ではなく、年2回のセミナーがあっても良いのではないかと思う。
- デスカッション形式の研修会も面白いかと思えます。
- ホームページ作成講座などして頂けると有難いです。
- 法式やこれからの仏教がどのように変わっていかなければならないかの講義をお聞きしたいです。
- 他宗派の行を体験してみたいです。
- 講義だけでなく体験もできる内容を希望します。
- 第二、第三回と回を重ねて下さい。